

街道東城路・街並み通信

vol. 4

～街道東城路周辺地区 魅力ある街並みづくりと地域の活性化 ワークショップについて～

平成28年3月 発行：庄原市都市整備課

街道東城路周辺地区において、歴史的な街並みの魅力を更に高めるとともに、賑わいの創出や住みよさの向上を図るため、住民や関係団体等の皆さんを中心としたワークショップを行っています（平成27・28年度）。ワークショップでの意見・提案をもとに、庄原市として具体的な施策・事業を検討するとともに、地元住民・事業者等の皆さんによるまちづくりの取組を促進します。なお、**第4回ワークショップ**は3月16日（水）に開催しました。

今回は前回の成果等を踏まえながら、4つの班のうち、A・B班は街並みづくりのルール案と公共施設の整備、C・D班は観光交流・地域生活に関する取組などについて、アイデアを出し合い、内容を掘り下げました。

第4回ワークショップのプログラム等（要点）

～まちづくりのアイデアを掘り下げよう（その2）～

日時：平成28年3月16日（水）19:00～21:10 会場：東城自治振興センター
参加者：住民・関係団体等の皆さん12人、アドバイザー2人、広島県2人、庄原市役所7人
進行役4人、報道機関3人

はじめに

○あいさつ ○親子でひな祭りイベントの紹介 ○前回の振り返り（結果概要）、今日の進め方

アイデア・取組の掘り下げ（班ごと）

A班・B班 『ルールづくり・施設整備班』

<街並み（景観）について>

○街並みづくりのルール案（タタキ台）



- ルール案への追加・修正、確認
- 自分・地域でできること、支援が必要なこと
- ルールを管理する仕組み（体制）、担い手

<公共施設整備について>

○対象とする公共施設（タタキ台）



- 整備が必要な公共施設、整備の内容 など

C班・D班 『観光交流・地域生活班』

<観光交流・地域生活について>

○目指したい姿・活性化の基本的方向、プロジェクトなどの案（タタキ台）



- 目指したい姿、活性化の基本的方向の拡充
- 各プロジェクト等の案への追加・修正、確認
 - ・プロジェクトの内容（取組）
 - ・体制（担い手、グループ・組織）など
 - ・取組方策（優先順位、支援など）



全体会

- 各班の発表、意見交換
- アドバイザーのコメント
- 今年度のまとめ及び来年度について
- おわりのあいさつ



目標・コンセプト・基本的方向

【目標・コンセプト、街並みづくりの基本的方向】

＜意見＞

- ・案にある「混在する」は「調和する」に 「歴史を振り返る」視点を入れては
- ・目指す街並み景観の年代は決めなくて良い(落ち着いた色、格子など) ←→昔の写真を集めて往時の姿(看板などが追加される以前)を出来るだけ把握する



目標・コンセプト…『江戸・明治・大正・昭和の歴史的な建物が調和する東城の街並み』の魅力づくり

【街並みづくりの基本的方向】～建物等の主として外観～

- 1 東城の街並みを特徴づける歴史的な建物を守り、継承しましょう。
- 2 改変等がなされた歴史的な建物をできるだけよみがえらせましょう。
- 3 新築・増改築などをするときは、歴史的な街並みとの調和に配慮しましょう。
- 4 東城の街並み・個々の建物の歴史を振り返り、その見える化・物語づくりなどに取り組みましょう。
- 5 東城の街並み、歴史的な建物などを活かしましょう。

街並みづくりのルール案

■全体的なこと(意見)

- ・竹原などの歴史的な街並みと東城では違いがあり、東城では「強制」ではなく「お願い」が基本
- ・ルールは全体で統一するのがよい(分かりやすいもの)、所有者に分かりやすい形
- ・特徴的なルールだけ、特記に対応
- ・細かいルールも街並みに対する意識づけが必要
- ・地区区分のうち、ヤマモトロックマシンの区域は「産業文化遺産地区」にする

■高さ

- ・これから新築・建て替える場合は、3階建てのニーズは低い(住宅、商店)

■色・外壁

- ・色を統一すれば一体感が出せる(共通ルールで)
- ・特に外壁の色は統一感をつくるためには重要、瓦以外は落ち着いた色に

＜外構＞

- ・コンクリートブロックを骨組みに表面を歴史的な形で仕上げることも可能なので、その点に配慮

■改修・新築など

- ・整備が進んでいる国道314号沿いは、ハウスメーカーの建物が多くなるのではないかと
- ・後に看板が付けられた多くの建物で、その看板を取ると歴史的な面が出てくる
- ・具体の建物で前面(看板)を取って改修してはどうか…助成が必要

■支援

- ・ハードとソフト(ルールの運営、活動など)の両面に対する支援が必要
- ・ルールに合わせることは+αなので支援が必要
- ・財政的な支援が特に必要
- ・制度をつくるには理屈が必要、現在の制度の拡充も(店舗だけでなく街並みの維持も)
- ・空き家対策が必要、空き地の増加、駐車場化が進む→対策
- ・後継者が帰ってこない建物の保存への支援

■ルールを管理・運営する組織・担い手

- ・街並みづくり(景観)を中心としたNPOをつくる:既存の団体(専門家)、新たな団体・グループ、外部の人・アドバイザー
- ・みんなで共通の認識、東城の現状や規模に応じた取組

■その他

- ・将来的には「歴史まちづくり法」(計画→ソフト・ハードの支援、事業)の活用を目指そう



公共施設の整備

■街道東城路・その他の通り・小路

- ・電線類の地中化は難しい(費用、道路幅員…トランスを置く場所がない)、電柱等はない方がよいが
- ・可能ならば裏配線(電柱を背後に移設)や軒下配線を検討
- ・国道314号バイパスができれば交通量が減る→歩きやすい通り、安全・安心、バリアフリー
- ・ストーリーづけて美装化、タイルやカラー舗装、舗装を色分けすれば車のスピードが落ちる
- ・寺社、七胡などをつなぐ通り
- ・小路のネットワークづくり(美装化、サイン整備の検討)
- ・名前のある小路での美装化の検討

■その他

- ・水路の活用:一部の区域で魅力づくり
- ・東城路、川沿いのライトアップ(夜の景観づくり)
- ・大橋の親柱の復元(邪魔にならない形で)
- ・サクラの保全、維持管理
- ・空き地を活かした魅力づくり、賑わいづくり



目指したい姿(業)など

C班

- 【目指したい姿】
住民が街並み・東城路の魅力を共有し、誇りを持って暮らすまち
- 【活性化の基本的方向】
- ① 東城路の多様な資源を継承するまち
 - ② 東城路の魅力を楽しむ人の行き交うまち
 - ③ 多世代交流の盛んなまち
 - ④ 誰もが安心・安全に暮らせるまち
 - ⑤ まち起こしを担う人材が集まるまち

プロジェクト

- 1 東城路街並み景観継承プロジェクト
- 2 東城路歴史文化継承プロジェクト
- 3 街の魅力化・観光交流人口拡大プロジェクト
- 4 多世代交流促進プロジェクト
- 5 快適環境づくりプロジェクト
- 6 まち起こし人材確保プロジェクト

プロジェクトの内容など(意見)

- 基本的な問題意識
- ・地域の将来を地域でもっと知るべき→危機感
 - ・人口構成(人口ピラミッド)を強くする
 - ・地域の勉強会、まちづくりは自分のために
- 今回のテーマ1: 地域生活・コミュニティづくり
- 社会参加・多世代交流
- ・次世代へ引き継ぐもの 100 プロジェクト
 - ・多世代交流のコーディネーター
 - ・インストラクターは地域の高齢者
 - ・地域食の伝承、生きがいづくり
 - ・新しいコミュニティづくり(人材バンク)
 - ・多世代交流: 伝統行事、子ども参加のイベント
- 地域福祉・見守り
- ・声をかける、話し相手になる、お隣さん運動
 - ・高齢者の外出促進
 - ・連絡の受け皿: 常会、自治振興区
 - ・地域(人)の見守り、個々の取組→広げる
 - ・光回線を利用した生存確認システム など
- 今回のテーマ2: 生活環境について
- 空き家対策が重要→東城らしい空き家活用
- ・空き家を借りギャラリーの出店
 - ・光回線の活用、起業に活用
 - ・空き家活用モデルづくり
 - ・不在地主等へ空き家活用を働きかけ
 - ・改修に補助(助成)
 - ・空き家借り上げ、格安でも持ち主に報酬を
- まちづくりの気運を高める
- ・商売を継ぐ、後継者を呼び込む
 - ・東城高校応援隊、郷土愛を育てる
 - ・まちづくり活動の地域への周知
 - ・聞きたい、話したいマッチング
 - ・お通り、ギャラリーの一体的取組から

D班

- 【目指したい姿】
歴史に彩られ、住みやすく、訪れたいまち
- 【活性化の基本的方向】
- 交流によって地区の魅力を再発見する
 - 経済面の活性化より、個人の生活を豊かにするまちづくり(生活の延長としての観光交流)

- 1 東城路への愛着育成プロジェクト
- 2 誰にもやさしい生活環境づくりプロジェクト
- 3 東城路情報発信・おもてなしプロジェクト
- 4 東城路丸ごと体験プロジェクト
- 5 東城路応援団育成・連携プロジェクト

- 誰にもやさしい生活環境づくりプロジェクト
- ・東城町民など近隣の人で賑わうまちづくりが大事→町民が楽しむ場、交流の場づくり
 - ・ベンチ、ポケットパークの整備
 - ・安心なまちづくり: 歩車共存、電柱が邪魔になる
 - ・道路の無柱化は賑わいの創出、地域の活性化に結びつかない(費用を空き家活用などに)
 - ・ハードより人材育成等のソフトの取組に重点を
 - ・若者、子育て世代が交流できる場づくり
 - ・空き家を生活環境づくり(快適空間づくり)、商店街の活性化に積極的に活用
 - ・空き家活用に向けた信頼できる仲介者の確保
 - ・空き家活用を推進するコアな仕組みづくり
 - ・空き家のギャラリーとしての活用
- 東城路情報発信・おもてなしプロジェクト
- ・道の駅、「えびす」での総合案内機能を強化
 - ・観光ガイドの育成(高齢者、高校生なども)
 - ・基本は東城路の住民一人ひとりが、もてなし(観光案内)をする姿勢が大事である。
 - ・雛まつりなどの知名度アップ
 - ・道の駅、えびす、東城支所等の情報発信の強化
- 東城まるごと体験プロジェクト
- ・来訪客層(子ども、ファミリー、成人、高齢者)に応じた体験交流プログラムづくり
 - ・東城路ファンにこだわった交流
 - ・酔づくり体験の提供と交流
 - ・全体をコーディネートする人、組織の確保
 - ・お宝が壊れないよう、観光ガイド同伴の見学
- 取組主体
- ・東城高校の生徒の参加(雛飾りの準備など)
 - ・まちづくり団体の情報交換の場づくり→団体間で連携した取組(PR、応援)
 - ・情報交換の場のコーディネーターの確保(県立大学の先生、行政の職員等) など

C・D班の意見・アイデアの統合
A・B班との連携・調整(空き家活用、バリアフリー、ソフト事業など)

A・B班との連携・調整



アドバイザーからのコメント

(松田智仁先生[広島大学教授])

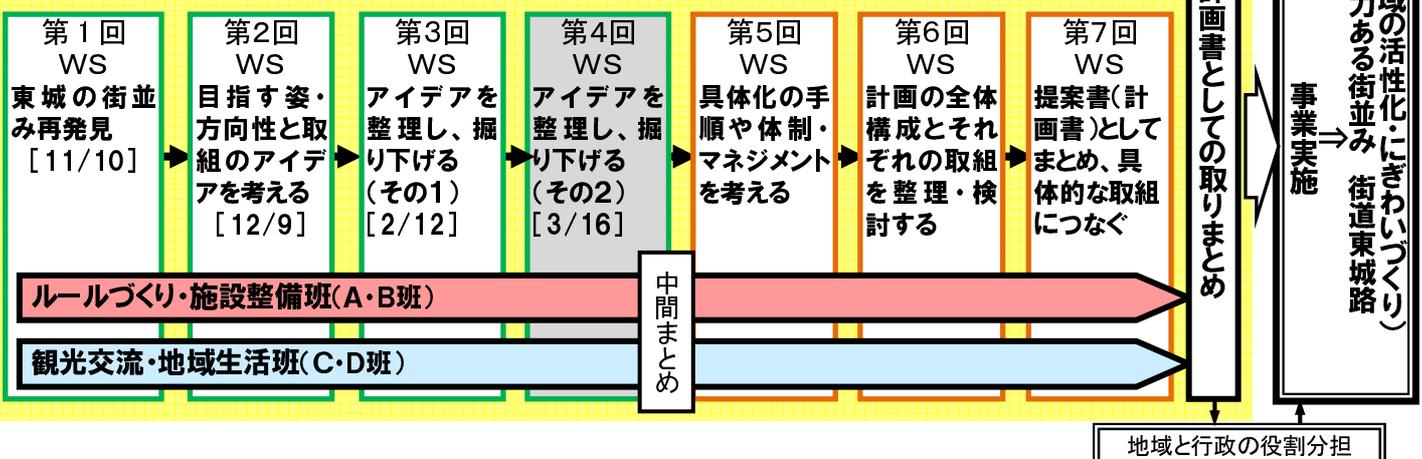
- 建物用途という視点で、人口が減少し空き家となっている所、近い将来空き家となりそうな所などについて、どのような建物用途を想定して街並みを育てていくかを考える必要があると思います。
- 観光振興では、食べる、体験する、見せるなど様々な分野がありますが、東城の場合に何が一番取り組みやすいのかを考え、体験型で和菓子や無添加の食べ物づくり体験といった6次産業化で建物を使っていくようなアイデアも考えていく必要があると思います。
- 春の雛祭り、秋のお通りだけでなく、帰省者の多いお盆の時期に、里帰りイベントなどとして小さい子を対象とした、浴衣祭のような和風の町に合った行事を仕掛けていくことも良いかと思います。
- バイパスが通ると街道東城路は歩きやすくなるので、バリアフリーの取組もより現実的になります。また、通り沿いに長椅子を設置することで長居するようなまちづくり、買い物の時に休みやすい空間、立ち話ではなく座って話す空間づくりにつながり、観光にも生活環境にも効果があるのではないかと思います。
- ルールづくりでは、建築物の話が多くなっていましたが、落ち着いた街並みづくりを進める上では、屋外広告物の情報提供なども話題になるといいと思います。

(福田由美子先生[広島工業大学教授])

- お年寄りによるまちの歴史を語る会といったアイデアがあり、そこに子どもを巻き込めればコミュニティ形成につながるのではないのでしょうか。観光のために行う事が、実は地元のことにつながるのだという形が見えてきたのではないかと思います。
- サービスをする側だけでは疲れてしまうため、する側・される側ではなく、みんなが楽しめるようにすることは、まちづくりの基本だと思います。長続きさせるためには、自分たちが楽しく、それが生活にもつながり、外部の人も楽しくなるようになるのが理想かと思います。
- “物語”と“体験”がワークショップの中でよく出てきています。そこを大事にしながらまとめられたら良いと思います。
- 空き家活用は各地で行われていますが、貸し借りでの不安感が大きいためコーディネートが必要で、それを行政よりも地元組織が担っていると、移住後も相談出来る形で地域に馴染みやすく、上手く行っている例が多いように感じられます。また、1日だけとか、短期・中期などであれば貸しやすかったといった意見も出ており、色々なパターンを想定しながら必要なコーディネートを検討出来るが良いなと感じました。
- 空き家の活用では、住まいだけでなく商売という形に結びつけられると東城らしさが出ると感じました。

ワークショップの進め方(予定)

平成27年度4回、平成28年度3回、計7回の開催を予定
 ※ワークショップの進捗状況等によって、テーマ・内容を調整します。



問い合わせ・連絡先

〒727-8501 庄原市中本町一丁目10番1号
 庄原市 都市整備課 担当：福田
 電話：(0824) 73-1151 FAX：(0824) 73-1147
 E-mail：toshi-shigaichi@city.shobara.lg.jp
 ~街並みづくりやまちづくりに関わるご意見なども、お寄せください~